

新見公立大学 大学院健康科学研究科

Graduate School of Human Health Sciences
Niimi University

2023年4月開設

地域福祉学専攻（修士課程）
Master's Course of Community Welfare

修士（地域福祉学）入学定員 4人
Master of Social Work

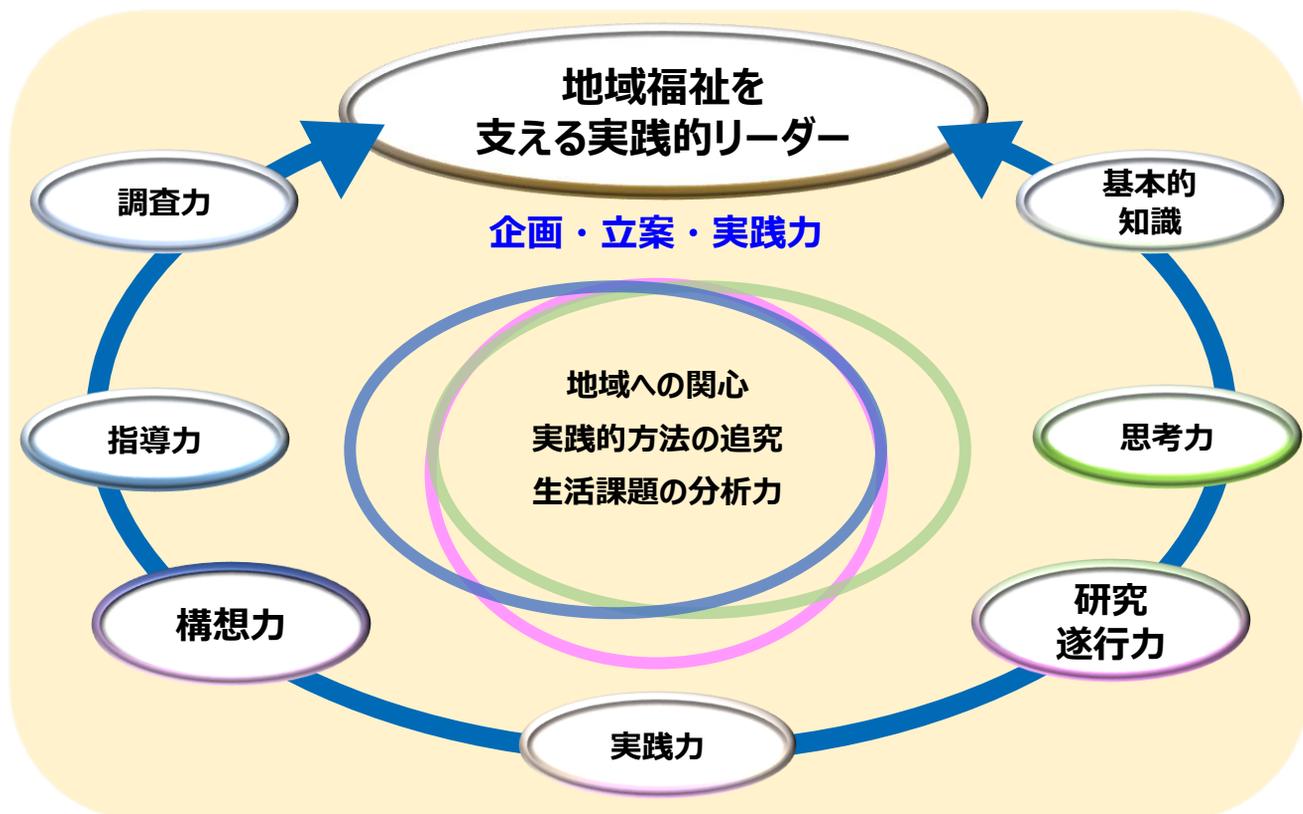


**福祉学の視点からみた中山間地域の
全世代型地域包括ケアの追究・実践**



地域が抱える生活課題を精査し、すべての世代が安心して暮らせるための包括的福祉支援と、持続可能なまちのしくみを創ることを目的に、福祉学を基盤として多様な主体と協働、共創する実践的方法を追究します。

中山間地域の課題解決のために活躍するリーダーを育成します。



教育研究上の目的

中山間地域の課題解決のために活躍する福祉学の視点からみた全世代型地域包括ケアを追究・実践する、次の力を身につけたリーダーを育成する。

- ① 多様な住民の生活課題を理解するための科学的調査の実施
- ② 福祉ニーズがある人々（精神障害を抱える人々も含む）への包括的支援
- ③ 地域福祉の視点からすべての世代のすべての人がこころ豊かに暮せる持続可能なまちのしくみの構想
- ④ 福祉の専門性を基盤とした多様な活動主体の協働・共創
- ⑤ 住民の生活課題解決のための企画、立案、実践と評価

養成する人材像

- ① 個別の生活課題が抽出できる福祉実践者
- ② 課題解決のための包括的支援体制を地域社会に関わる多様な人々と産学官民を巻き込んで指導的に構想できる福祉実践者
- ③ 課題解決のための地域福祉としてのアクションを探索・企画・立案して実践できる福祉実践者

修了後の進路

保健、医療、福祉、教育に関する機関・施設、行政機関、NPO等において主に地域活性化の仕事を行うソーシャルワーカー、ケアワーカー、地方行政職



専攻の特色

- 中山間地域の課題解決を志向する全国唯一の大学院。地域福祉学を基盤として健康科学、共生社会の視点から中山間地域の課題を分析、評価します。
- 調査の方法、量的調査、質的調査の分析方法が修得できます。
- 元厚生労働省事務次官（本学客員教授就任予定）、元厚生労働省専門官（本学客員准教授就任予定）、NPO法人代表者、日本総合研究所主席研究員、福祉施設経営者を外部講師として招聘。中山間地域の福祉課題解決のための実践力を身につけることができます。

カリキュラム

*授業は平日は18:20~19:50)、土曜日は9:20~18:10)の開講を基本とします。オンラインでの講義やオンデマンド授業（授業配信）を併用する場合があります。

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 単位数 | | 修了要件 |
|-------------|----------------------|-----|----|-------------------------|
| | | 必須 | 選択 | |
| 研究科 共通科目 | 健康科学特論 | 2 | | |
| | 健康科学英語特論 | | 2 | |
| 基礎科目 | 福祉共生社会特論 | 2 | | |
| | 地域福祉学研究方法論 | 2 | | |
| | 社会調査特論 | | 2 | |
| | 量的調査特論 | | 2 | |
| | 質的調査特論 | | 2 | |
| 専門科目 | 地域福祉学特論Ⅰ（社会福祉理論領域） | | 2 | 3科目から 2科目 (4単位)以上 |
| | 地域福祉学特論Ⅱ（介護福祉領域） | | 2 | |
| | 地域福祉学特論Ⅲ（ソーシャルワーク領域） | | 2 | |
| | 地方政策学特論 | | 2 | |
| | 地域包括ケア福祉学特論 | 2 | | |
| | コレクティブ・インパクト特論 | | 2 | |
| | 専門演習 | 2 | | |
| 研究指導 | 地域福祉学特別研究Ⅰ | 4 | | |
| | 地域福祉学特別研究Ⅱ | 4 | | |
| | 合計 | 18 | 18 | 合計30単位以上 |

専任教員

| 職位 | 教員名 | 研究テーマ |
|------|-------|-------------------|
| 教授 | 松本百合美 | 介護福祉、介護技術 |
| 教授 | 三上 ゆみ | 介護福祉、介護実践 |
| 教授 | 山本 浩史 | 社会福祉、文化科学 |
| 教授 | 鄭 丞媛 | 社会疫学、医療福祉マネジメント |
| 教授 | 井上 信次 | 障害・メンタルヘルス、社会福祉調査 |
| 教授 | 高杉 公人 | 地域福祉実践、実習教育 |
| 特任教授 | 加藤 雅彦 | 公衆衛生行政、衛生教育 |
| 准教授 | 小松尾京子 | ソーシャルワーク実践、地域包括ケア |

■ 入学者受け入れ方針：アドミッション・ポリシー

以下の事項についての関心、目的意識、意欲を持っている人を求める。

- ① 地域福祉、コミュニティデザイン、地域共生社会に高い関心を持っている人。【関心】
- ② 中山間地域での持続可能な社会を福祉の視点で構築したいという目的意識を持っている人。【目的意識】
- ③ 共生社会の視点から福祉専門職のリーダーとして実践的に活動したいという意欲を持っている人。【意欲】
- ④ 研究に必要な福祉に関する基本的な知識を持っている人。【基礎知識】

| 入試者選抜試験科目との関連 ○：関係している | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|
| | ① | ② | ③ | ④ |
| 専門科目 | | | | ○ |
| 小論文 | | | | ○ |
| 面接 | ○ | ○ | ○ | |

■ 教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー

研究科共通科目、基礎科目、専門科目、研究指導を配置し、実践的事例の分析を含んだ講義、演習を提供することにより、中山間地域で活躍できる福祉の実践的リーダーの育成を行う。ディプロマ・ポリシーの達成に向けて、以下の方針を定め、科目ごとに達成目標・評価方法をシラバスに記載し、その到達度を評価する。

[研究科共通科目]

- ① 本学が目標とする健康科学の視点を活用できる教育を行う。

[基礎科目]

- ② 共生社会構築における中山間地域の生活課題への理解を向上させるための教育を行う。
- ③ 倫理規範を身につけ、中山間地域の生活課題を調査・分析・研究するための教育を行う。

[専門科目]

- ④ 生活課題がある中山間地域の人々を理解し、住民主体・利用者主体で課題解決に向けた支援を企画・立案するための教育を行う。
- ⑤ 生活課題がある中山間地域の人々への包括的支援体制を構想し、実践的に評価するための教育を行う。

[研究指導]

- ⑥ 福祉学の視点からみた全世代型地域包括ケアを追究・実践するための総合力を養うために、修士論文を作成する。

■ 学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー

専攻の定める期間を在学し、設定された授業科目を履修後、基準となる単位数以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することで、修士（地域福祉学）の学位が授与される。

- ① 健康科学、共生社会、並びに地域福祉学に関する基本的知識と課題に向き合う視点を身につけていること。【基本的知識の修得】【思考力】
- ② 中山間地域が抱える複合的な生活課題を調査・分析し、抽出された課題解決に向けて、倫理規範に則って研究を実施する力を身につけていること。【調査力】【研究遂行力】
- ③ 中山間地域の生活課題の解決のために、地域福祉学的見地から住民主体・利用者主体の支援策を企画・立案する力を身につけていること。【企画・立案力】
- ④ 中山間地域の様々な個人・機関・団体と連携・協働し、福祉実践のリーダーとして包括的支援体制を構築するために必要な構想力、実践力、指導力を身につけていること。【構想力】【実践力】
【指導力】
- ⑤ 福祉学の視点からみた全世代型地域包括ケアを追究・実践するための総合力を身につけていること。【総合力】

